

養父忍は分限帳に三人扶持助教方とあり、漢字を教えていたという。のち旧藩主のもとで日本赤十字社に勤めていたが、久作が新潟に就職する時一緒に移住した。

(愛知県)

## 解剖用女性人体模型と

### S・エルドリッジの手紙

松木明知

一

米国ワシントンのウォルターリードメデイカルセンター内にある陸軍医史博物館は、正式には、Armed Forces Medical Museum of the Armed Forces Institute of Pathology と称するが、これまでに日本にはほとんど知られていなかった。

演者は、エルドリッジの手紙を解読している中に、同博物館に日本製の医学教育用人体模型が二体所蔵されていることを知ったので、昭和六十二年七月同館を訪れ調査したので、その概要を報告する。

木製の人体模型は二体ある。いずれも身長は約一米位の女性である。一体は女性の臥位で胸腹部の臓器が観察可能になっており、腹部では子宮に胎児を見る。もう一体は座

位で胸腹部に見る肺、胆、大小腸などの形態は、中国の医学の伝統を伝えるものである。いずれも江戸期に製作されたと考えられるが、製作者、製作年代については正確なことは判明していないという。客観的に見ても、解剖学史上、そんなに高い価値を有するものではないと考えられる。

## 二

しかし重要なことは、この模型を米国に送ったのはスチュアート・エルドリッジであったことが彼の手紙によって判明した。すなわち、アメリカの陸軍の医学図書館、博物館の生みの親と称される、J・S・ビルングスに宛てた一八七一年九月二十二日附のエルドリッジの手紙（横浜の総領事館から）は、博物館のために多数の医書と約四フィートの女性の人形（マネキン）を送ったことを伝えている。この荷物は、同年十一月二日横浜出港の船で送られたことが、同じくエルドリッジのビルングス宛十月三十一日附の手紙で明らかである。

## 三

現在アメリカ国立医学図書館 (National Library of Me-

dicine) は、エルドリッジのビルングス宛の手紙を五十三通保管している。未整理のものももう少しあるというが、詳細は不明である。

この手紙を読むと、エルドリッジはビルングスに驚くほど多くの医書や標本を送っていることが判る。その中にはアイヌの人骨なども含まれている。函館に勤務していたためであろう。また歯の模型も送っている。

日本に二部しか現存していない、エルドリッジの発行になる『近世医説』の第一号も、この図書館に保存されており、エルドリッジの一八七四年七月二十日附の手紙によれば、第一号は五〇〇部は売却済みであるという。

同時にエルドリッジの書翰は、多くの医書を米国から購入したことを伝えている。

以上のことからエルドリッジが幕末から明治初期にかけて、実施の医療を通じて少なくとも貢献を日本の医学に与えており、また当時の日本の医学を米国に紹介していることが明らかとなった。

(弘前大学医学部麻酔科)